はじめに

朝、センターの廊下に出て外を見ると、朝陽をあびて雪原が広がります。西側には川が流れ、東側には白く染まった桜の木が立ち並び、奥の方には雪山が。留学生に「見て見て！」と声をかけ、「きれいだね～」と笑いあうひとときは、利賀の四季を過ごしていることを幸せに思う瞬間のひとつです。

さて、2025 年が始まりました。今年はすべての留学生が、それぞれホームステイ先がある地区の年中行事である左義長に参加させていただきました。初めて体験する子も多く、「書初め持って行けばいいんだよね？」「ごはんも食べてくるの？」と行く前からそわそわしていた留学生たち。雪景色の中、都会では見ることのできない大きな火に、自らの書初めが高く上がっていく様や、地区の方と温かく新年を迎えられた景色は、彼らにとって鮮やかな記憶になるのだろうと思います。

修園までは残り 2 ヶ月ほど。雪遊びやら行事やら期末テストやら、様々なことに向かっていくうちあっという間に過ぎていくだろう 3 学期だからこそ、1 日 1 日を充実したものにして、留学生活を全うしてほしいと願います。利賀地域の皆さまには、引き続き温かく見守っていただけますと幸いです。

松浦　実穂

雪ってたのしいね！

ロンレーに到着！
雪の上でお弁当♪

【活動日程】

1／8　帰園
1／9　雪遊び
1／11　個人体験日
　左義長(坂上･阿別当)参加
1／12　アルペンスキー活動①
　左義長(上村)参加
1／13　アルペンスキー活動②
　左義長(上百瀬)参加
1／18　アルペンスキー活動③
1／19　ノルディックスキー①

〒939-2516　富山県南砺市利賀村坂上 18
南砺利賀みらい留学センター
TEL：0763-77-4103　／　FAX ： 0763-77-4037
MAIL：nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp
WEB：http://www.nanto-toga.com/

1／9　雪遊び

１月最初の活動は、たっぷり積もった雪で雪遊びでした。地元生も４名がセンターを訪れ、一緒に冬休みの終わりを遊びきりました！そり遊びに雪洞掘り、雪の中に埋め合って遊んだり、まん丸の雪玉を作ったりと遊び方も様々。冒険かのように、自分の腰ほどまである雪をひたすらラッセルしている人もいました。おやつには新雪を少しずつ味見しました。ジュースを少しかけて…「おいしい！」と笑顔。午後にはクロスカントリースキーに挑戦する人もいました。丸１日めいっぱい遊んで、利賀の豪雪を存分に味わいました。

1／11・12・13　左義長参加

三連休、利賀の各地区では左義長が行われ、留学生もホームステイ先の地区ごとに参加しました。まずは準備のお手伝いをさせていただき、茅束を運んだり、正月飾りを結び付けたりしました。暗くなり始めた頃、いよいよ点火の時間です。燃え広がる炎を見守りながら、字が上手くなるように書初めを空高く燃やしてもらいました。また、火の中で餅を焼いてもらい、今年の健康を願って美味しくいただきました。冬の星空の下、綺麗な火に見惚れた夜の時間となりました。

初めて左義長を見て、燃やし始めがすぐに火が燃え広がってすごくてちょっとびっくりしました。書初めを燃やしていたとき高くとんで、いつ落ちてくるんだろうと思いました。そして、20 分くらいしていたら火の柱が落ちてきてけっこうびっくりしました。そして、雪を素手でさわって寒かったとき、火にあたってあったかかったです。また、いなくぼさんがつくってくれたおもちが、もちもちであつあつで、きなこを付けて食べておいしかったです。（おうき）

アルペンスキー①～③

３学期に入り、冬の自然に親しむスポーツ活動として、アルペンスキーが始まり、１月中は３回の活動を行いました。

山村留学生は、半分がスキー初体験ということで、いずれもタカンボースキー場で活動を実施しました。

12 日(日)と 13 日(月)は半日の活動ということで、既に滑れる留学生は足慣らしを兼ねながらプルークボーゲンの確認等の練習、初心者の留学生はスキーの履き方や歩き方、滑って止まるをメインに練習していきました。

午後に時間がある留学生は、センターに帰ってきてからも、センターの裏にコースを作って練習をしている様子がありました。

18 日(土)には、直前に学校での「スキー学習」を挟んだこともあり、初心者だった留学生も、ほとんどが滑って曲がって止まるところまで技術レベルが向上していました。

２ 月からは、他支部交流や、スキー大会への参加を通じて、様々なゲレンデや自然環境にチャレンジしていきます。

1／19　ノルディックスキー

雪上移動方法の一つであるノルディックスキーを利賀の山中で行いました。地元生３人も加わり、ロンレー子ども村を目指し、雪山の自然を楽しみながら登っていきます。ロンレー子ども村には 210 ㎝の雪が積もっており、別の季節とは全く異なる景色に驚く姿も。帰りは登りで歩いた跡を辿って滑り降りていきますが、「曲がれない！」「難しいー！」と慣れないクロスカントリー用のスキー板での滑りに苦戦し、たくさん転びながら下山しました。暖かな日差しの中、美しい冬の山の世界を堪能した活動でした。

私達は、1 月 19 日にノルディックスキーをしました。ノルディックスキーは登ることがメインで全体的にゆったりしたペースでした。きれいな快晴の中で歩くのは最高でした。到着地点で飲んだココアとチャイは疲れた体にしみ、いくらでも飲めました。下るときは、日が当たって緑になる木や枝の先の小さな芽、たくさんの動物の足跡を見ることができました。これからの活動でも、たくさんのきれいなものを見つけていきたいです。(はるえ)

保護者だより

山留二年目に思うこと

瑚羽は昨年度からお世話になっており、利賀での山留生活二年目となります。９年生なので、最終年度となり、残りあとわずかです。

この二年の瑚羽の成長を振り返ると、初年度は「ついていくのにいっぱい、いっぱい」という風情だったように思います。実は継続について、忙しさや人間関係の大変さなど、本人は迷っていたようです。

そうして決断した二年目。「余裕」とまではいかないまでも、少しは「考えて」「自発的に」活動しているように感じます。本人いわく、山留生最高学年の自覚が出てきたといえばカッコいいですが、その実は「小さい子たちにカッコ悪いところを見せたくない」ということのよう（笑)。動機はともあれ、親から見たら大変ありがたく大きな成長です。かっこ悪い動機ながらも、フワフワした「天然ちゃん」が、彼女なりにお姉さんをやっている姿に目を細め、親子共々迷いながらも継続を決めて本当に良かったなと思った二年目でした。この環境を与えて下さった育てる会と利賀村に感謝するばかりです。のんびりぼんやりの娘を、利賀村の雄大な自然と皆様のあたたかさがゆっくり育ててくれました。子供の成長について、つい成果を焦りがちですが、親としてこれからも利賀村の自然のように、どんと構えてじっくり娘の成長を見つめなければなと、親のほうも成長させていただいたように思います。

Supporters' Voice

城岸　栄利花さん（　指導補助員　）

※留学生を見守り、支えてくださっている地域の方から、メッセージをいただきます

利賀村出身の城岸栄利花です。現在はセンターの宿直やスポーツクラブの指導員をするため月に数回利賀村に帰っています。

利賀村に帰り利賀っ子たちと活動を共にするたびに成長を感じられ、指導者として、また先輩として、とてもうれしく思っています。また、みんなにはふるさとを想う気持ちを忘れないでほしいです。もちろん留学生にとってのふるさとは出身地になりますが、利賀村も第２のふるさとだと思ってください。

これからも未来を担う子どもたちに、利賀っ子の先輩としてふるさとに関わり続ける姿を見せていきたいです。

留学生と一緒に過ごす栄利花さん。
また、双子の姉妹である美千花さんも、時折指導補助員として手伝ってくださっています。

みらい留学　定地定点

※留学生は利賀の四季を体感する定「地」定点観測のため、毎朝外に出て「朝のつどい」を行っています。朝のつどいでは、自然にまつわる声かけを指導員からひとつ。記録の一部を紹介します。

１／２０（木）　晴れ　気温：－１℃　【おかしみ】

・雪の山が固くしまり、歩けるくらいになると、利賀の人は「おかしみ」(丘凍み)と呼んだとか。通学や遊びでその上を歩いていたそうです。本来はもう少し後の時季かな？

１／２１（火）　晴れ　気温：０℃　【氷筍】

・上からたれた水が、冷えて下から順に凍り、氷柱が生えたようになること。

・つららの逆バージョン。百瀬では寒い日が続くと水道の水滴などからできるとか。